

案件化調査

タンザニア国 もみ殻を原料とした固形燃料製造装置の導入案件化調査

企業・サイト概要

- 提案企業：株式会社トロムソ
- 提案企業所在地：広島県尾道市
- サイト・C/P機関：KIDT(キリマンジャロ工業開発財団)、SIDO(中小企業開発機構)、ダルエスサラーム工科大学

タンザニアの開発課題

- 人口増加、経済発展、都市化の進行に伴い、エネルギー需要が増え、供給が慢性的に不足
- 特に、国民の9割以上が煮炊きに使う薪炭の利用拡大に伴い、森林が急速に減少
- 一方、主食の一つであるコメの副産物であるもみ殻をエネルギー源として活用する技術やノウハウが不足している
- 農村部の貧困率は高く、雇用創出が必要

中小企業の技術・製品

- もみ殻を固形燃料に加工する装置を持つ
- 独自の機構・表面加工により、メンテナンスの頻度を抑えられる技術を持つ
- もみ殻のすり潰し・圧縮・成形加工に係る部品製造に高度なノウハウが必要である一方、それ以外の機構は比較的シンプルなため、現地で調達・製造が可能

調査を通じて提案されているODA事業及び期待される効果

- 民間提案型・普及実証事業案件などを活用して現地パートナーにもみ殻固形燃料製造装置を導入し、メンテナンス、組み立て、製造、ビジネスモデルなどの現地化を推進
- 現地仕様で低コスト化した装置を精米所や大規模農家などに導入し、森林保全や雇用創出に貢献

日本の中小企業のビジネス展開

- コア部品と現地で調達困難な部品のみを日本から供給し、現地で製造・組み立てし、低コスト化
- 輸出するコア部品の量産効果により、日本国内でのコストダウン・事業拡大も図る

